

伝統香る街並み チッタスローを牽引

トルコで初めてチッタスローに指定された町セフェリヒサルは、そのコンセプトどおりのスローシティ。海沿いの村スアジクと併せて、オーガニックフードや古代遺跡、美しい海をゆったりと楽しみたい。

トルコ西部・エーゲ海地方イズミル県のセフェリヒサル (Seferihisar) は、2009年にチッタスロー (cittaslow) に登録されたトルコ初の町。9つの村で構成され、人口はわずか4万700人 (17年現在) とこぢんまりしている。イズミルからは46kmの距離で、陸路移動約60分でアクセスできる。主要産業は農業で、風力や太陽、地熱発電といった自然資源をエネルギーに活用するスローシティを地で行く町だ。チッタスロー登録を機に、セフェリヒサルの西に位置する港町スアジク (Sığacık) を中心に、17年までの5年間でホテルのベッド数は4倍に拡大。スアジクの城壁内エリアでは、歴史ある建物でブティックホテルやペンションを運営するための教育やサポートを行い、個人旅行者向けの宿泊施設の増設に意欲的という。

温暖な気候に恵まれたこのエリアでは、マンダリン (地中海みかん) やアーティチョーク、オリーブなどを生産している。特にマンダリンは特産品で、毎年11月中旬にセフェリヒサル・マンダリンフェスティバルが開催される。18年に19回目を迎え、マンダリンの品質コンテストや新作の料理&スイーツコンテストのほか、マンダリン王・王妃コンテストなど、さまざまなプログラムが行われる。

このほかにも、郊外のトゥルグトゥ村でラベンダー祭り、ウラムシュ村でアタ・パンとアロマ祭り、オルハンル村でキバナアザミ祭りなど、スローシティのイメージに即した催しがある。

スアジクで市場めぐりを

セフェリヒサルでは毎週火曜に市場が立ち、地元で栽培された野菜や果物、加工品などが並ぶのが恒例だ。ここでしか買えない特産品の一つに「アタ・パン」がある。これは11年に絶滅寸前だった小麦 (トパンカラクルチュック) が発見されたことがきっかけ。地元のシードセンターと一緒に種を増やし、小麦の栽培からパンの製造へとつながった。

スアジクでも、毎週日曜にスアジク・オーガニック・マーケットを開催している。14年に城壁内を修復したことで出来たスペースを活用しており、城壁内の小路に露天がびっしりと立ち並ぶ。ここでは無添加で健康的な食材がテーマ。地元産のオーガニックフードやドリンク、雑貨などがずらりと陳列される様子は壮観だ。トルコ各地からやって来る人々は自家製のボレキ (トルコ風パイ) やドルマ (野菜の肉詰め料理)、手作りクッキー、ハーブやスパイスなどを買い、海辺のカフェでトルコチャイを飲んだり、散策をしながらゆったりとした日曜を過ごす。

スアジクの街並みはまた、見た目にかわいらしく、おしゃれ。扉や窓枠にアクセントのある白壁の家や石畳の小路は、日本人がイメージするヨーロッパのスローシティそのものだろう。カフェやレストラン、ホテル、ペンションなどが整備されている町は、散策に最適な規模で、できれば市場が開かれる日曜に

スケジュールを合わせて訪れたい。自家製のジャムやピクルスなどのほか、チッタスローのシンボルマークとなっているカツムリの手作り雑貨をお土産に買うのもお勧めだ。

スアジクのすぐ南に位置するテオス (Teos) 古代都市遺跡も必見ポイント。ローマ時代初期に繁栄したイオニア系都市で、ワインの神様、ディオニソスの神殿や議事堂跡、古代劇場跡などを見学することができる。オリーブの木々が立ち並び、オレガノの香が漂う遺跡は歴史上で初めて俳優の組合が結成された場所としても知られている。

さらに、49kmに及ぶ海岸線を有するこのエリアでは、美しいビーチも楽しみたい。EU認定の優良ビーチであるブルーフラッグビーチもあり、ウインドサーフィンやダイビング、ボートツアーなどのアクティビティにチャレンジできる。スアジクの城壁に隣接するマリナーでは、夏にナイトマーケットが開かれる。テキスタイルやお土産物を扱う屋台が立ち並び、にぎわいをみせる。



持続型スローシティのモデルケース目指す

現代社会において、人々はより静かで平穏な生活を求めていることでしょう。チッタスローの町セフェリヒサルでも、健康的な食生活や穏やかな日常を理想としていますが、それだけでなくその生活を持続していくモデルケースになることも必要です。

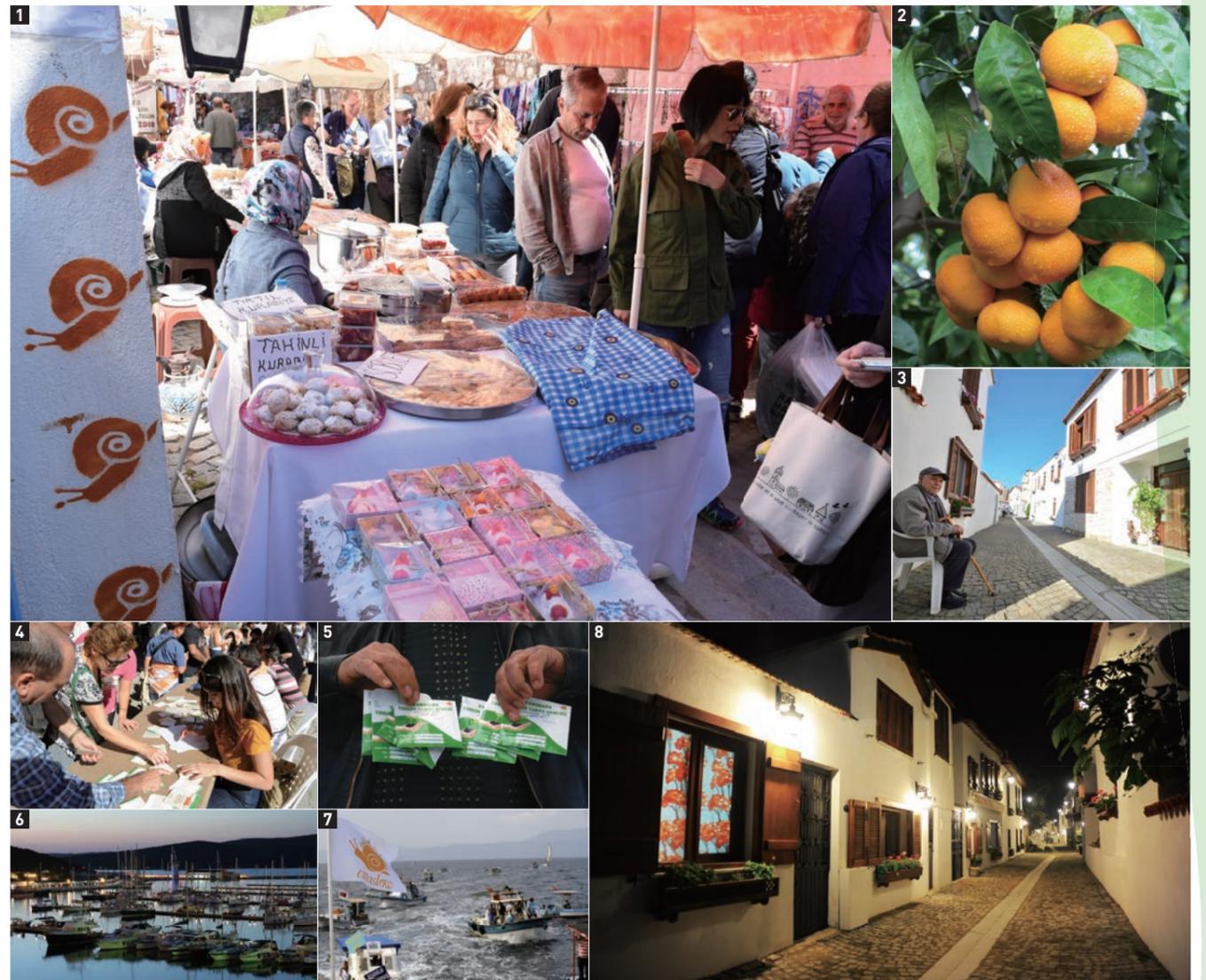
そこでわれわれはこの4年間、未来を見据えて生産者への支援を続けてきました。「未来の村々を創る」をテーマにトルコ固有の種を守り、生産者によるマーケットを開設し、また生産者組合をつくることといった活動で、ソーシャルエコノミーの発展モデルを育ててきたのです。そこには経済活動に女性が貢献できるモデルを構築したことも大きな成功の要因

となりました。またこのモデルは、セフェリヒサルの9つの村にそれぞれ独自の文化や経済をつくり上げることにもつながっています。各村で特産品にまつわるフェスティバルが行われ、そのたびに数千人の訪問者でにぎわいをみせています。その盛り上がりは社会的、経済的な貢献も大きく、これはトルコ全体の好例にもなりました。

チッタスローの町で静かなトルコ旅行を楽しみたいという旅行者も多いと思いますが、ぜひこうしたイベントにも参加し、その盛り上りの貢献者の一人になっていただければと思います。



セフェリヒサル市長
トゥンチュ・ソイェル (Tunç SOYER) 氏
(2013年よりチッタスロー・インターナショナル副会長を兼務)



1 城壁内跡地に立ち並ぶ市場 2 温暖な気候がマンダリンの栽培に適している 3 スアジクの城壁内エリアは散策にお勧め 4 5 6 セフェリヒサルでは、生産者マーケットを開設しトルコ固有の農作物の種を守っている。49kmの美しい海岸線が見どころ 7 スアジクは漁村の町として有名。チッタスローでは地元の産業を大切にしている 8 ひっそりとした夜の街並みも美しいスアジク

Seferihisar

セフェリヒサル



チッタスロー (cittaslow) 「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。